

事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成31年 3月 7日

事業所名 With ひろば真備

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	0	・人数が多い日などは工夫して、空いているエリアを上手く活用できるように、スケジュールを組んでいます。お子様に合わせて見直しなどを行っていきます。
	2	職員の配置数は適切である	6	0	0	・H30年度は、配置基準の2名に加え、1名職員を多く配置しています。職員の休暇等により、支援の質に影響が出ないよう、職員の人数を増員する検討も行っていきます。職員の働きやすさにも繋げていきたいと思ひます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	0	・構造化は、お子様達の状態に合わせて行っています。衝立が多く、すべての場所で車いすのご使用は難しい状況がありますが、現在は車いすが必要なお子様のご利用はない状況です。 ・玄関にチラシなどを掲示できる、情報提供の場を作っています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	0	・被災後は床と壁、室内のほとんどすべての物品を新しくしました。 ・来所するお子様に合わせて玩具の入れ替え等を行っています。 ・常設ではありませんが、お子様に合わせて、遊具やトランポリンを用意し、身体を動かせる時間等も作っています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	0	3	3	・現在は職員全員が揃って目標設定や振り返りをする事ができていませんが、お子様が帰られた後、昼や夕方の時間に情報交換を行っています。欠席の職員については、連絡ノートで確認できるようにしています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	0	3	3	・保護者等向け評価表につきましては、H31.1月に配布し、いただいた評価・ご意見をまとめさせていただきました。 ・事業所向け自己評価表につきましては、H30.12月に配布し、評価をまとめました。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	0	3	3	・今後、検討して決まったことを少しずつ実践して参りたいと思ひます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3	2	・現在は行っていませんが、支援の内容については、2カ月に1回、外部の先生にスーパーバイズに来ていただき、様々な視点を教えていただいています。今後も継続して行っていききたいと思ひます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	1	・様々な研修の案内を回覧して希望者を募ったり、第5土曜日にWithひろば早島との合同勉強会の機会を作ったり、職員のそれぞれの課題に応じて、年に数回は研修に出る機会を作っています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	1	・利用開始時や毎年4月にニーズシートを記入していただいたり、懇談の際にニーズをお聞きした上で、児童発達支援計画を作成しています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	1	・お子様の多彩な姿を捉える事は、1つのアセスメントツールでは難しいことだと考えており、複数の評価ツールを組み合わせ使っています。保護者の方々にも成長を実感していただきやすいように配慮しています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている	5	0	1	保護者の方がご家庭等で取り組める課題を提案していくようにしています。また、ご希望に応じて園訪問などを実施しています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	1	・児童発達支援計画は、約4カ月に1回見直しを行い、保護者の方と懇談を行ってから承認を得て支援を実施しています。 ・ねらいを押さえながら支援が提供できるよう、連絡帳にもねらいを記載しています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	1	3	2	・職員が全員揃って立案を行う事は出来ていませんが、一人が原案を作成し、管理者や上位の者が確認を行うようにしています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	2	・同じ活動が続いてお子様が飽きないように配慮しています。また、お子様の楽しみや好きな物を取り入れるようにも工夫しています。

	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を敵宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4	0	2	・課題やお子様の状態によって、どの場面で取り組むべきかを意識しながら児童発達支援計画を作成し、その中にも記しています。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	0	・前日・または書面から役割分担などが確認できるようにしています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	0	・お子様が帰られた後、振り返りを実施しています。その日のねらいに対しての様子や情緒の様子、成長した点などを話し、共有しています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0	・気になった点などは、連携ノートや個別ファイルに記載し、対応を考え、次の改善に繋げられるように心がけています。
	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0	1	・約4ヶ月に1回、計画の見直しを行っています。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1	2	・担当者の都合がつきにくく、会議に参加しにくい状況であれば、管理責任者等が代わりに出席することがあります。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	1	・必要に応じて、保健師さんや病院とも連携を取ることができます。園訪問なども行い、先生方とも連携を行っています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	0	4	・現在は対象者の方がいらっしゃいません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	1	5	・現在は対象者の方がいらっしゃいません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	0	・園や学校へ訪問させていただき、引継ぎ等を行う場合もありますが、書面のみで行う場合もあります。今後は、できる限り訪問をさせていただき、情報共有ができるように努力して参りたいと思います。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	1	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	0	・H30年度は発達障害者支援センターの方が主催された研修に参加させていただきました。今後も連携やご協力を得ながら支援を展開していきたいと考えています。 ・支援の内容については、2カ月に1回、外部の先生にスーパーバイズに来ていただき、様々な視点を教えていただいています。今後も継続して行っていきたいと思っています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	5	1	・現在は並行通園をされているお子様がほとんどです。未就園のお子様にも園解放への参加や、児童館などの経験もおすすしめし、その際のご様子などもお聞きするようにしています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	4	1	・今年度は参加できておりませんので、今後検討を行っていきたく思います。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	・送迎の際や連絡帳にて、Withひろばでの様子や家庭での様子等の情報交換をさせていただいています。今後も細やかな情報交換ができるよう、努力していきたく思います。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4	0	・現在、プログラムはありませんが、H30年度は数名の職員が研修に参加し、H31年度には、ペアレントプログラムの実施を計画しています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	0	・必ず、契約前にご説明をさせていただいています。玄関にも掲示して、いつでも見ることができるようにしています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	0	・ガイドラインにのっとり、計画を立ており、保護者の方からも同意を得ております。
	34	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0	・約4ヶ月に1回程度は懇談でお話を伺ったり、送迎時のお話や連絡帳でご相談をお受けしたりしています。 ・お子様の姿を踏まえながら、根拠のある助言や支援を提案させていただくように心がけています。

	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	0	・本年度は1回の予定ですが、毎年2回は座談会を実施しており、保護者の方々が関わられる機会を設けています。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0	・ご質問やご相談には、迅速に対応するように心がけています。懇談日以外にも、希望者の方がいらっしゃれば、相談のお時間を取るようにも調整しています。
	37	定期的な会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0	・With ひろばだよりを2カ月に1回配布しています。その中で子育ての情報や行事予定などをお伝えしています。今後も内容が充実するように努力していきたいと思います。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	0	・日頃から十分に配慮するようにしています。ホームページ等で外部の目に触れる可能性がある写真などは、1枚ずつ許可を得てから使わせていただいています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0	・視覚的支援の活用や環境設定など、また、分かりやすい説明などを心がけて、進めさせていただいています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5	1	・今年度は行えていない状況もありますが、学生さんや地域の方々と触れ合えるように、ボランティア活動の依頼をする等、働きかけてみたいと思います。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	2	1	・作ってあるマニュアルの存在などが、保護者の方々には十分に伝わっていない状況です。閲覧できるようにしたり、緊急時の対応を配布したりして、共通理解を図りたいと思います。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	2	0	・時期は決まっていますが、職員については年2回は避難訓練を実施しています。来年度は少し回数を増やし、実施していきたいと思います。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	6	0	0	・見学をされた時や、契約時に必ず確認をしています。個別調査票にも記入をしていただき、漏れがないように配慮しています。 ・予防接種の確認はできておりませんので、今後検討していきます。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	1	・医師の指示書の提出までは、お願いをしておりますが、契約時に必ず確認をしています。また、なるべく保護者の方に、一つ一つ食べてもよいお菓子（食べたことがあるお菓子）かどうか等、確認させていただくようにしております。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	0	・ヒヤリハットの事例があった場合、書面に記載したり、必ず会議にて報告をしたりし、事業所内で共有しています。また、With ひろば早島との合同勉強会で共有も行っています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	3	1	・本年度は虐待防止マニュアルを見直して、職員に回覧を行っています。次年度以降、担当を決めて、研修参加や研修の報告実施を予定しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	1	3	2	・本年度は対象者の方がおられませんでした。今後、身体拘束の必要性が出た場合には、必要な手順を踏んでいきます。

○ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。